

大学院美術研究科 博士後期課程 文化財保存学専攻

養成人材およびカリキュラム編成の方針

大学院美術研究科博士後期課程文化財専攻では、文化財保存に寄与する専門人材を養成するため、保存修復作業の実務及び理論の習得を通じて、文化財の保存修復に関する研究や技術を重点的に学び、実践・演習するためのカリキュラム編成となっている。

指導教員は所属する研究領域における研究実践や演習・修復実務を通じて、文化財保存領域における今日的な諸問題や研究課題を考察・提示し、実習・レクチャー・ディスカッション・ワークショップなどを通じて、個々の研究および相互の知的交流の活性化を図る。学生は自らの研究主題に関する研究・発表・制作等を行いながら、専攻内の他領域の教員や他の学生との積極的な意見交換等を通じて自身がすすめる研究の新規性・有用性・信頼性を高め、高度な学術性と格調を備えた博士学位にふさわしい研究・作品制作・論文執筆を行う。この他に必要に応じて研究分野における学会発表や査読付き論文発表も行う。また、自身の研究領域を超えて他の領域について学ぶための科目も設置し、美術分野に関する幅広い知識と視野を養い、美術分野にとどまらず社会で幅広く活躍できる人材を育成する。

博士課程での研究を進めるにあたって必要となる論文作成技術などの基礎的事項を学ぶための科目もカリキュラムに組み込むほか、最終的な学位申請においては、博士展を開催して、公開発表の場も準備する。

求める入学者像

文化財保存学分野におけるより一層高度な専門性をもつ制作や研究等を達成し、社会にその成果を還元できる人材、文化財の保存修復で伝統と革新を実践できる人材を求める。

選抜試験においては、修士課程等で習得した能力を審査するために、提出作品または論文・小論文・語学能力審査・口述試問等を行い、その結果を総合的に判断して選抜する。

博士学位授与の方針

教育課程表に記載された所定の単位を修得し、最終年次に行われる博士学位審査会において、博士学位論文や研究作品の公開審査に合格し、かつ最終試験に合格した学生を博士学位取得者と認め、「博士（文化財）」の学位を授与する。

カリキュラム構成

【1年次】

- ・自身の持つ芸術および保存修復分野における基礎的素養の確認
- ・文化財保存学分野における研究主題の策定
- ・研究主題に関連した保存修復実習 など

【2年次】

- ・研究計画にもとづく研究・分析
- ・研究主題に関連した保存修復実践
- ・学会発表や査読付き論文の発表 など

【3年次以降】

- ・博士学位審査に向けた研究の継続および論文執筆
- ・研究主題に関連した保存修復演習
- ・学会発表や査読付き論文の発表 など

教育目標

- ①文化財保存学分野におけるより高度な保存修復知識の習得
- ②文化財保存学分野におけるより高度な保存修復技術の習得および実習
- ③文化財保存学分野における新規性のある研究課題に関する研究および研究成果発表